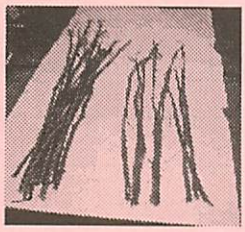
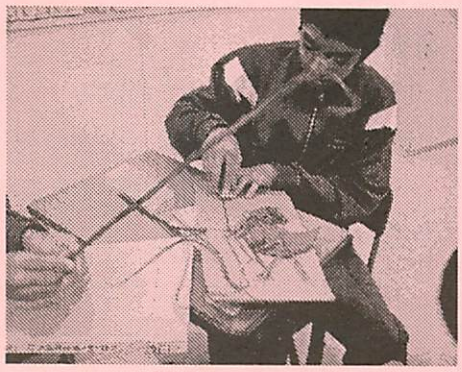
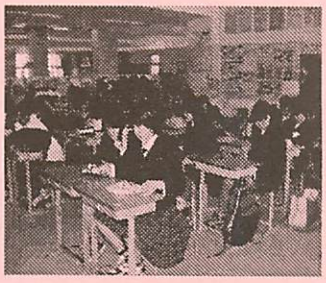
〈中学校　社会科〉

郷土に対する興味・関心を育む学習指導の工夫

―― 選択(社会)における「沖縄の歴史」学習を通して ――







浦添市立神森中学校　前 川 朝 正

目　次

Ⅰ．テーマ設定の理由 ---------- 1
Ⅱ　目指す生徒像 ---------- 1
Ⅲ　研究目標 ---------- 2
Ⅳ　研究の仮説 ---------- 2
　1　基本仮説 ---------- 2
　2　作業仮説 ---------- 2
Ⅴ　研究構想図 ---------- 2
Ⅵ　研究内容 ---------- 3
　1　授業の改善に向けての試み ---------- 3
　2　年間指導計画の作成と内容の充実 ---------- 5
　3　パワーポイントの活用や写真資料等の収集とその効果的な活用方法 ---------- 11
Ⅶ　授業実践 ---------- 12
　1　単元名 ---------- 12
　2　単元目標 ---------- 12
　3　単元の設定理由 ---------- 12
　4　指導計画 ---------- 12
　5　本時の指導 ---------- 13
Ⅷ　研究の考察 ---------- 14
　1　作業仮説 1 の検証 ---------- 14
　2　作業仮説 2 の検証 ---------- 17
Ⅸ　研究の成果と課題 ---------- 18
　1　成果 ---------- 18
　2　課題 ---------- 19
【おわりに】 ---------- 20
【主な参考・引用文献】 ---------- 20

郷土に対する興味・関心を育む学習指導の工夫

ー選択(社会)における「沖縄の歴史」学習を通してー

浦添市立神森中学校　前　川　朝　正

【要　約】

本研究は，沖縄の歴史を指導するにあたって，選択授業を活用し35時間分の指導計画を作成して，指導方法を工夫し授業内容を充実させることである。テキストに「沖縄県中学校社会科教育研究会編『沖縄県の歴史』」を活用し，沖縄の原始社会から戦後 1970 年代までを指導内容とする。沖縄の歴史に対する興味・関心を育み，ある程度の知識と理解を習得させ，本県を取り巻く近隣諸国との関係や沖縄に関する社会的事象の理解の定着を目指す。そのため，話し合い活動や写真資料等の活用を取り入れ生徒が意欲的に取り組む楽しい授業を実証する。

キーワード

□授業の改善　□協同学習の意義　□ヴィゴツキーの最近接領域　□年間指導計画案
□指導案　□板書事項　□写真資料

Ⅰ　テーマ設定理由

中学校社会科学習指導要領の内容「(1)　歴史の流れと地域の歴史」に，「イ　身近な地域の歴史を調べる活動を通して，地域への関心を高め，地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに,歴史の学び方を身に付けさせる」ことが掲げられている。また，要領の総則編第3章「第 3 節　選択教科の内容等の取り扱い」で，「課題学習，補充的な学習や発展的な学習」が示され地域学習の重要性と選択授業での活用を示している。

一学期に，勤務する学校の生徒に実施した沖縄の歴史に対する意識調査(4 クラス 138 名)の結果は次の通りである。あなたは沖縄の歴史について，【A もっと詳しく学びたい　B 機会があれば学びたい　C 学びたくない】の選択肢では A が 20%(28 名)，B が 66%(91 名)，C が 14%(19 名)。多くの生徒が機会があれば学びたいと思っている現状が把握できた。

ところで，中学の歴史教科書に占める沖縄の歴史は，4 項目ぐらい掲載され，集約すると平均 2，3 ページ程度で終わる。全体のバランスを考えて自主的に時間を割いて教えるにしても限界がある。

そこで，このような現状を踏まえたとき，中学校の歴史教科書のように古代から現代までの沖縄の歴史を通史として教えてみたいという願いがおこる。

ところで，本県を取り巻くアジア史的な状況のなかで出てくる憂えるべき現状がある。2005 年 11 月 16 日に中国で起きた反日デモのなかで B5 判用紙ほどのビラがまかれた。それには「沖縄を中国に返せ＝還我琉球，還我沖縄」と書かれていた。これは何を意味するのか。また，2006 年 5 月 30 日，台湾政府が「沖縄は日本の領土」と公式発表をした。この時代的ズレは何を意味するのか。いずれも小さい枠の新聞報道であるが，他府県とは異なる特異的な本県の歴史に深い関わりを持つ。読む側に立てば(中学生)ある程度の知識と理解がなければ，その意味を読みとる事ができない内容である。故に，本県の通史におけるある程度の知識と理解が要求される。

本研究は，年間 35 時間の選択授業を活用し，通史として沖縄の歴史を学習するにあたり，年間指導計画を作成するとともに，その授業の内容においては,写真や資料等を用いて生徒の興味・関心を育み,自ら考え探究する事のできる生徒の育成と楽しい授業の展開を目指す。故に本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す生徒像

沖縄の歴史に対する知識と理解を持ち探究することができる生徒

Ⅲ　研究目標

「沖縄の歴史」に対する興味・関心を育み，相互の学び合いができる生徒の育成。

Ⅳ　研究仮説

1　基本仮説

35 時間分の年間指導計画を作成し，授業内容を充実すれば，沖縄の歴史や文化に対して興味・関心を持ち，社会的事象を理解させる事ができるようになるであろう。

2　作業仮説

(1)　話し合い活動や発表を通して，より深く物事を考え理解し，学び合う場が育まれるであろう。

(2)　パワーポイントを活用し，写真，資料など視覚に訴えることによって，興味・関心が高まり，理解も深まり，生徒が楽しいと思う授業を創ることができるであろう。

Ⅴ　研究構想図

〈目指す生徒像〉
沖縄の歴史に対する知識と理解を持ち探究することができる生徒

↓

〈研究テーマ〉
郷土に対する興味・関心を育む学習指導の工夫
～選択(社会)における「沖縄の歴史」学習を通して～

↓

〈研究目標〉
「沖縄の歴史」に対する興味・関心を育み，相互の学び合いができる生徒の育成。

〈研究仮説〉　↓

〈基本仮説〉
35 時間分の授業内容を充実すれば，沖縄の歴史や文化に対して興味・関心を持ち，社会的事象も理解できるようになるであろう。

作業仮説(1)　↓
話し合い活動や発表を通して，より深く物事を考え理解し，学び合う場が育まれていくであろう。

作業仮説(2)　↓
パワーポイントを活用し，写真，資料など視覚に訴えることによって，興味・関心が高まり，理解も深まり，生徒が楽しいと思う授業を創ることができるであろう。

〈研究内容〉↓

1，授業の改善に向けての試み
2，年間指導計画の作成と内容の充実
3，パワーポイントの活用や写真資料等の収集とその効果的な活用方法

↓

授業実践

↓

研究の成果と課題

Ⅵ　研究内容

1　理論研究

(1)　授業の改善に向けての試み

① 学校教育の内容と方法の変化

佐藤学氏(東京大学教授)の著書「教育の方法」(放送大学テキスト)によると,「近代の学校は,国民国家の統合と産業社会の発展を主要な使命として組織された学校であった。教える事を中心とする画一主義の学校であり，効率性を追求する学校であった。このような学校像はグロバリゼーションによる国民国家の衰退とポスト産業主義社会(知識や情報やサービスが経済の中心になる社会)の到来によって歴史的使命を終えつつある」という。つまり，社会構造の変化によって教育の在り方にも大きな変化が起きているのである。

具体的な例としては欧米諸国の教室の変貌を挙げている。そこでは「黒板と教卓があって机と椅子が一方向に並べられ，教師が教科書を中心に説明し生徒がノートをとるという授業風景はもはや博物館入りであり，今や教室では 20 名前後の生徒が 4，5人ずつテーブルに座って特定のテーマを中心に創造的，探求的に協同学習(図3)を展開する場所へと様変わりをしている」と述べている。更に教師の果たす役割や学びの変遷について「多くの資料が活用され教科書は補助資料の一つになり，教師は学びのデザイナーとファシリテーター(促進者)の役割を果たすようになり，知識や学びの「量」から「質」への転換がはかられ，所定の知識や技能を効率的に習得する学びから，創造的な思考とコミニュケーションによって本質的な内容を表現し共有する学びへと変化している」と述べている。

これらの事から理解できることは，世界的な動きとして，特に欧米では学びにおける「量」から「質」への転換がはかられたということであり,「日本を含む東アジアの国々では，今なお伝統的な教室の風景と伝統的な授業の様式が支配的」だということである。

21 世紀の社会は，産業主義の社会からポスト産業主義の社会に転換する。これまでの産業主義の社会はモノの生産と消費が市場経済の中心をなす社会であるのに対して，ポスト産業主義の社会は，情報や知識，対人サービスが市場経済の中心になる。また,「知識社会」とも呼ばれ知識が高度化し複合化し流動化する。そして知識を応用し活用し学び続ける創造的な能力が求められる。ポスト産業主義の社会に特に必要とされる学力は「読解リテラシー」「数学リテラシー」「科学リテラシー」であるといわれている。

では，具体的にどのようにして「質」への転換がはかられていくのか，共同学習を手がかりに考えてみたい。

② 協同学習への転換

佐藤学氏は学びについて二つの伝統がある事を記述している。一つは「修養」としての学びであり，もう一つは「対話」としての学びである。そして，教室における学びは,「教材や道具によって媒介された活動であり，教師や仲間との対話的コミニュケーションの活動であり，その過程にいくつもの対話的実践が埋め込まれている」という。

対話的実践は三つの次元に分けられ，最後にはこの三つが一つになって学びが形成され遂行していくという。対話的実践の一つは対象世界(題材・教育内容)との対話であり，二つ目は教師や仲間との対話であり，三つ目は自分自身との対話の実践である。すなわち学習者はこの三つの対話を通して学んでいきながら世界観や人生観や知識や理解等を深め自己のアイデンティティをも確立していくのである。

別の言い方をすると，学びは「世界づくり」「仲間づくり」「自分づくり」を追求していく対話的実践だというのである。この佐藤氏の理論からいかに対話(コミニュケーション)が大切であるかが浮き彫りにされてくる。

授業に目を転じてみると，佐藤氏は対話的コ

ミニュケーションが成立している授業は「一人一人の子どもが自立して教師とも仲間とも対話的なコミニュケーションを展開し，教師と子どもが協同で真実を模索し探究し合う関わりが形成されている」と述べている。そして，その基盤には「聴き合う関わり」が成立し，それは学び合う関係の出発点だとしている。

対話的コミニュケーションや聞き合う関わりが身近で行われているのはグループ活動ですが佐藤氏はこのグループ活動の形態も，対話的実践を遂行する学び合う形態としてとらえ協同学習(collaborative learning)と呼んでいる。

この協同学習においてはメンバーの多様な考え方を交流し合う事が要求され，その交流における対話的コミニュケーションによって，新しい世界との出会いと仲間との対話が喚起され，一人一人の「背伸びとジャンプ」が呼び起こされるという。

この「背伸びとジャンプ」という概念は次に述べるヴィゴツキーの「発達の最近接領域」と関係してくるが，平たくいえば，話し合い活動の結果「ああそうだったのか」「何だそういうことか」「なるほど分かった」というような生徒の言葉で表現される状況の事だと思われる。一人で解決することはできないが，みんなの意見を擦り合わせる事によって解を導く事ができる。教師は常に生徒が「背伸びとジャンプ」ができるように課題や設問を考えてあげた方がより効果的な学習効果が得られる事になる。

更に佐藤学氏は，心理学的に「競争的環境」と「協同的環境」のどちらが生産性が高いかを比較した結果，明らかにその大多数が「競争的環境」の個人学習よりも「協同的学習」のグループ学習の方が生産性が高い事が立証されているという。

以上，長々と佐藤学氏の理論に沿って述べてきたが，要は伝統的な一斉授業(図１と図２)から協同学習(図３)を取り入れた学習の形態を模索し，実践することは大きな意義があり大切だということである。

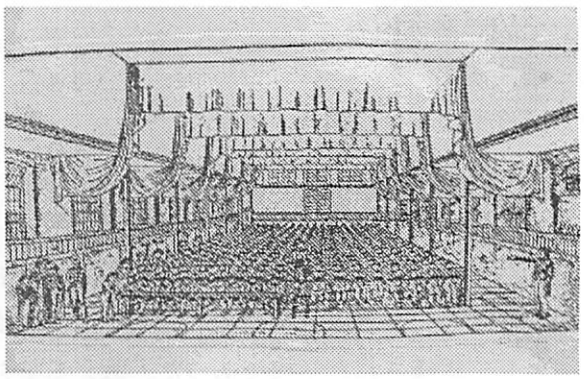


図１　一斉授業の起源，モラトリアル・システム
「教育の方法」より

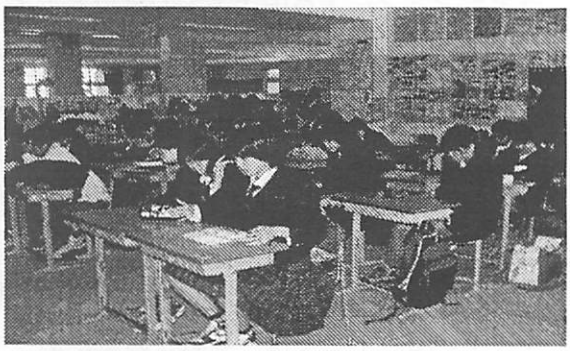


図２　選択授業における一斉授業

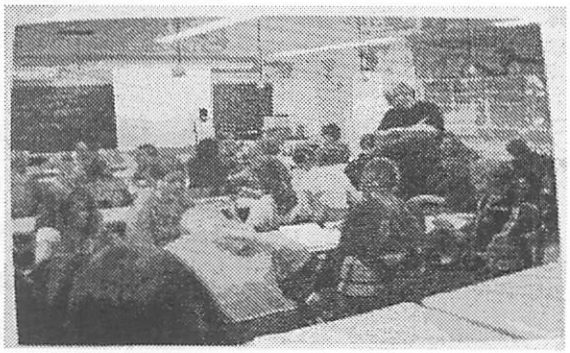


図３ フィンランドの中学校，少人数による学習
「教育の方法」より]

③ ヴィゴツキーの最近接領域理論と発展

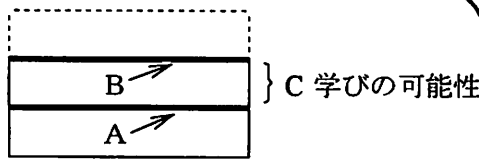
佐藤学氏はテキスト「教育の方法」において「ヴィゴツキーは，言語をコミニュケーションの道具としての「外言」と思考の道具としての「内言」に分け，発達はまずコミニュケーション(外言)という社会的課程として成立し，次にその「外言」が「内言」として「内化」される心理的課程として展開されるのである」と述べている。平たくいえば，初め子どもにおいてことばは周りの人々とのコミニュケーションの手

段として使われるが，やがてことばを使って試行錯誤するようになり，内言へと転化して高次精神機能を獲得して行くということである。この心理的過程こそ発達であり，他者との関わりの中で有効に発現すると思われる。

このことからヴィゴツキーの「発達の最近接領域」という概念が子ども達の発達を考えるうえで大変大きな示唆を与える事になる。佐藤学氏はこの部分について次のように述べている。「ヴィゴツキーは，子どもの精神発達を他者とのコミニュケーションを内化する過程であるとし，『一人でできる段階(今日の発達水準)』と『他者の援助によって到達できる段階(明日の発達水準)』との間のゾーンを『発達の最近接領域』と名付け，教育は『発達の最近接領域』(図４)に合わせて行うべきである」

更に佐藤学氏は「背伸びとジャンプ」という概念を用いて，子どもたちの学習到達効果について述べています。すなわち，班活動などにおける学び合いにおいて，多様な意見を出し合い，すり合わせをして解を導き出す。この時に「ああわかった」とか「そうなんだ！」とか，一人ではなかなか導き出せなかった答えを生み出していく。この状況が学び合いには大切だというのである。よって，教師は生徒がこの「背伸びとジャンプ」をうまくできるように適切な課題を設けて授業を展開した方が望ましいと思う。

このようにヴィゴツキーの「発達の最近接領域」の考え方は協同学習を遂行する上で大切な理論となるのである。



A　独りで到達できる水準(今日の発達水準)
C　発達の最近接領域
B　教師や仲間の援助によって到達できる水準(明日の発達水準)

図４　放送大学「教育の方法」講義内容より

(2)　年間指導計画の作成と内容の充実

①　年間指導計画の必要性

本来，選択授業のコース内容は生徒のニーズによって決められるべきものであるが，ここでは教師の側からコースの内容を立案する。

まず，選択授業を年間 35 時間として項立てを考える。項立ては，沖縄県中学校社会科教育研究会編のテキスト「沖縄県の歴史」を活用する。「沖縄県の歴史」に関する資料としては，文化的な側面に焦点をあてていくつか編纂され出版されているが，中学生を対象として考え「通史」的な内容を押さえる事を目的とした場合にこのテキストが一番良いと思われる。

週に１時間ではあるが，授業内容をおろそかにしがちである。そこで，腰を据えて内容の充実を図ることが要求される。その内容は，ア　板書事項の確立，イ　資料・写真等の収集，ウ　これらをパワーポイントに収録し活用する準備エ　指導案の作成等である。これらを 35 時間分準備することである。

選択授業に関する研究論文も幾つかあり参考になるが，「通史」的な視点に立ち上の内容にそってなされたものが見あたらない。昨今，沖縄の歴史」関係の資料集も充実され活用次第では中身の濃い授業展開が期待される。

一貫性のあるテーマとして，「共に学び合う態度」の育成，「思考力・判断力」の育成，「興味・関心」を育む工夫などを念頭に置き日ごろの授業を展開していきたいと思う。また，各授業においては，次の４つの試みを展開していきたい。ア　生徒の活動を取り入れること，イ　班活動を取り入れること，ウ　表現・発表の場を設けること，エ　現代との接点をつくり出すことである。

焦らず上の目標に地道に取り組んでいくためには，選択授業の年間指導計画の作成とその内容の充実が望まれる。

② 35時間分の年間指導計画の作成

月	時間	単元	学習項目	学習内容 (キーワード)	ねらい	写真，資料 *現代との接点(モノ)*
4月	1		希望調査	コース開設にあたっての全体説明会	・生徒の希望にそって選択ができるようにわかりやすく説明する。	希望調査資料
	2		オリエンテーション	学習方法，ルール説明 アンケート意識調査	・年間指導計画案の説明や学習方法のきまりや評価について理解させる。	年間指導計画案資料 アンケート資料，評価資料 ファイル配布
	3		テスト	沖縄の歴史問題50問	・意識付けのためテストをさせて，解説をしながら解答する。後日，この中から豆テスト等を実施する。	テスト問題用紙
5月	4	一 沖縄の原始社会	(1)沖縄のあけぼの P7~ ・島々のなりたち ・山下洞人と港川人	アジア大陸，数億年前，ナウマン象，イリオモテヤマネコ，1万年前，洪積世，山下同人，港川人，石切場	・アジア大陸の変動に伴う琉球列島の成立過程と動植物の広がりや沖縄の人々の祖先について考えを深めさせる。	琉球列島のなりたち(8枚)，陸橋を渡ってきた動物たち(4枚) 山下洞人(5枚)，港川人(8枚) 港川人の獲物たち(6枚)，*化石*
	5		(2)貝塚をのこした人々 ・沖縄の貝塚 P9~ ・人々のくらし	遺跡，700か所，沖縄の時代区分，土器，石器，貝製品，狩りや漁，竪穴式住居	・沖縄の新石器時代の様子について，特に土器の発明や貝の交易を通して九州地方とのつながりを考えさせる。	沖縄の先史土器文化編年略表 おもな遺跡の分布図，新石器早期・前期・中期土器，土器の作り方，竪穴式住居など
	6		(3)村落のおこり P14~ ・農耕のはじまり ・村の生活	農業，畑作中心，稲作，炭化麦，定住，御嶽，神のいる森，指導者，祭り	・稲作農業の普及によって生じた社会の変化や集落の起源・祭りの意味と意義などを考えさせる。	炭化麦，御嶽，祈りの様子 祭りの様子，高倉
6月	7		ウチナーグチ入門① ・沖縄にのこる古い日本語 ・あいさつ文や会話の練習	よこしものいい，あきつ，まじもの，待ちかてに ニヘ(フェ)ーデービル	・ウチナーグチが日本語の姉妹語であることを理解させ，あいさつ文や簡単な会話を練習していく。	あいさつ文等の資料 神田川(ウチナーグチバージョン)CD
	8	二 琉球王国の形成と発展	(1)按司の発生と成長 ・按司の発生 P17~ ・三山の形成	指導者，支配者，按司，グスク，太陽，世の主，源為朝，英祖王， 三山時代，進貢使，進貢貿易，尚巴志，三山統一，	・農業生産力の向上等により，やがて指導者である按司が各地に発生する事を理解させる。 ・三山時代の形成過程を理解させるとともに進貢貿易の役割や意義について考えさせる。	沖縄本島のおもな城跡 浦添ようどれ 伊祖城跡 牧港テラブのガマ 森川(羽衣伝説)
	9		(2)琉球王国の成立 P23~ 尚巴志と三山統一 ・堅固な今帰仁城 ・尚巴志王統の政権と動揺	佐敷城跡，尚巴志，1429年，三山統一，今帰仁城跡，今泊の丘陵，勝連城，阿麻和利の乱，中城城，護佐丸，王位継承をめぐる対立	・尚巴志による三山統一の過程を理解させるとともに，統一後に起きた阿麻和利の乱について考えさせ，その後の第一尚氏の行く末を暗示させる。	佐敷城跡，今帰仁城跡 中城城跡，勝連城跡 今帰仁城攻略 阿麻和利の乱
	10		(3)琉球王国の政治の展開 ・中央主権の確立 P27~ ・対外貿易の発展 ・文化の興隆	第一尚氏，尚円，第二尚氏，尚真王，中央集権国家の確立，東南アジア，中継貿易，室町時代，琉球奉行，倭寇，屋良座森城，石造建築，円覚寺	・第二尚氏の成立と尚真王による中央集権国家の確立を通して政権が安定していった事を理解させる。・中継貿易のしくみや進貢貿易との違い，また沖縄独特の文化に与えた影響等についても考えさせる。	尚真王，進貢船，琉球の貿易図，玉陵，園比屋武御嶽石門 円覚寺跡，弁財天堂，おもろそうし，冠(ハチマチ)，三線
7月	11		(4)浦添の歴史 「太陽の王国・浦添」 インターネットより	舜天，英祖，察度，尚寧 中継貿易，浦添の意味，浦添貝塚，テラブのガマ	・調べ学習。4人の王を通して浦添の歴史を浮き彫りにし流れを概観する。また，浦添市内の文化財を学習し理解させる。	王統図，テラブのガマ，伊祖城跡，浦添貝塚，伊祖の高御墓，浦添城跡，浦添ようどれ
8月	12	三 島津氏の支配と王国の移り変わり	(1)島津氏の琉球侵略 ・進入以前の島津氏との関係 P33~ ・島津氏の進入	室町幕府，豊臣秀吉 朝鮮出兵，謝名親方 徳川家康，1609年侵入 今帰仁城落城，琉球占領，尚寧王，人質，掟15条，	・島津氏を軸に秀吉・家康の政策と深く関わっていく琉球のようすや島津氏の進入の意図を理解させる。 ・進入に伴う戦いや終戦の様子など王国に与えた影響と琉球が幕藩体制に組み込まれていったことを理解させる。	島津家当主(絵)，秀吉・家康(絵) 堺の港(絵)，謝名親方(絵) 侵入経路の地図 平良の古戦場(写真) 尚寧王(絵)，掟15条資料
	13		(2)島津氏の支配 P38~ ・島津氏の統治 ・江戸上り	在番奉行所，上納，進貢貿易，冊封使，江戸上り，慶賀使，謝恩使，異国風	・在番奉行所の役割と琉球国内の様子を理解させ。・ ・幕藩体制下における「江戸上り」の果たす役割を複眼的に理解させる。	大綱引きの様子(絵) 江戸時代那覇地図 江戸上り(写)15枚 *上いり歌ち*(ビデオ映像)
	14		(3)羽地朝秀と蔡温の政治 ・羽地朝秀の政治 P40~ ・蔡温の政治	羽地朝秀，摂政，諸制度の改革，仕明地，日琉同祖論，蔡温，三司官，経済の安定，治水工事，植林，御教条，独物語，王子尚敬	・島津氏支配のもとで，琉球王国の発展を模索した羽地朝秀の政治改革を理解させる。 ・島津氏侵入から約120年後の王国の様子を理解させると共に，蔡温が行った諸改革の意義を理解させる。	朝秀と蔡温の肖像画 中山世鑑，ハチマチ，セーファー御嶽，松並木，羽地川改修碑 ソテツの実，ソテツの実調理法人頭税石，　*ソテツ*
	15		ウチナーグチ入門②・応答，肯定・承諾・同意，否定，拒絶	ふー(はい)，ひー(ああ)，うー(はい)，いー(うん)，をぅーをうをぅー(いいえ)，いーいいー(ううん)	・応答のしかたなどの会話練習をし，家族構成員等の呼び方を理解する。・ウチナーバージョンで歌って情感を　味わう。	会話文等の資料 なだそうそう(ウチナーグチバージョン)CD

月	時間	単元	学習項目	学習内容 (キーワード)	ねらい	写真，資料 *現代との接点(モノ)*
10月	16	三 島津氏の支配と王国の移り変わり	(4)島津支配下の政治・経済・社会 P44~ ・首里王府の政治のしくみ ・身分制度の確立 ・産業の発達	王府のしくみ，間切り，在番役人，身分制度，大名・士・百姓，野国総官，甘藷(いも)，儀間真常，製糖法伝来，織物，陶器，漆器，	・琉球王国の政治のしくみを中央と地方に留意しながら理解させる。 ・日本封建社会の厳密な身分制度とはやや異なる状況を理解させる。 ・沖縄の産業について知るとともに，起源や伝来等に付いても理解させる。	ペリー来琉時の市場の様子(4枚)，風景(塩田・牧港・番所跡8枚)，宮古上布関係(10枚)漆器関係(4枚)，壺屋焼き関係(4枚)，*からむし*
	17		(5)沖縄文化の発達 P49~ ・編集事業 ・文学の発達 ・学問と教育 ・芸能の発達	おもろそうし，中山世鑑，琉球国由来記，刑法典，沖縄文学，琉歌，吉屋思鶴，沖縄古今集，程順則(名護親方寵文)，麻酔治療，科，蔡温，三線，組踊，玉城朝薫	・王府による積極的な歴史書や歌謡の編集事業と文学における三つの区分(沖縄文学・和文学・漢文学)と人々の活躍を理解させる。 ・日本や中国などの影響を受けながら発展していく学問，教育制度，芸能の様子をなどを理解させる。	おもろそうし，中山世鑑 球陽，歴代宝案，琉球科律 羽地朝秀，程順則，玉城朝薫 宜湾朝保，恩納ナベ・吉屋思鶴琉歌資料，工工四，組踊り 琉球舞踊，空手
	18		(6)琉球王府の動揺 P56~ ・王府の財政難 ・苦しい農民生活	儀礼的な諸行事，琉球館，接待費，特産物の販売，借金一万貫 租税の取り立て，夫役(強制的な労働)，砂糖の専売制，人頭税制度，農村の貧困，身売り，一家離散	・王府の財政難の原因や，その解決策として農民からの収奪が強化されいていく様子を理解させる。 ・餓死者も出る自然環境，地方役人の横暴や重い税負担に苦しむ下層農民がいる一方で富裕農民の存在にも気づかせ二極化の農村実態を理解させる。	江戸上り，琉球館跡，王府時代の民家，ソテツの調理法 人頭税石，機を織る女性 資料(災害)，
	19		(7)『琉球王国のグスク及び関連遺産群』～VTR	斎場御嶽，識名園，首里城跡の五つの城，園比屋武御嶽石門，玉陵，中城城跡，座喜味城跡，勝連城趾，今帰仁城趾	・ビデオ映像を通して九つの関連遺跡を鑑賞しながら，なぜ，世界遺産に登録されたのか，その歴史的背景を考えさせる。	ワークシート
11月	20	新聞づくり	・歴史的人物， ・文化的側面	舜天王，尚巴志，蔡温，玉城朝薫，謝花昇など エイサー，綱引き，獅子舞，基地問題など	・インターネットや図書館を利用して左記に関する新聞を個人で作成する。	過去の新聞例を提示
	21				・資料を収集しまとめ発表・表現する事によって，より深い学びを体験させる。	過去の新聞例を提示
	22	四 近代の沖縄	(1)黒船の来航と琉球 ・黒船の来航 P61~ ・ペリーの来航	黒船の来航，プロヴィデンス号遭難，キリスト教宣教師，バジルホール，ベッテルハイム，1853年ペリー那覇港来航，開国要求，日米和親条約，琉米修好条約，	・黒船(欧米の船)来航の背景を考えさせるとともに，寄港地としての沖縄の地理的環境やペリーの対琉球政策を幕府の鎖国政策との絡みの中で理解させる。	ペリー，黒船 ペリー来航の経路図 古地図(那覇) 泊外人墓地 琉米修好条約 バジルホール ベッテルハイム
12月	23		(2)琉球処分と世がわり① ・変革の時代 P65~ ・琉球藩の設置 ・琉球藩から沖縄県へ	明治政府誕生，琉球の帰属問題，琉球王国の廃止，台湾遭難事件，琉球藩，台湾出兵，松田道之，尚泰王，廃藩置県，分島改約案	・琉球王国から琉球藩，琉球藩から沖縄県へと変革させられる過程で，琉球王国が滅び，沖縄も明治政府の中央集権体制に組み込まれることになったことを理解させる。	大政奉還 明治維新慶賀使 台湾遭難事件 台湾出兵 松田道之 尚泰王，廃藩置県
	24		(2)琉球処分と世がわり② ・県政の基本方針 P69~ ・上杉県令の赴任 ・学校教育のはじまり	沖縄県政，県令，九行政地区，サンシイ事件，探訪人(売国奴)，大湾朝功，脱清人，上杉茂憲，県費留学生，旧制度改革の意見書，師範学校，標準語教育，尋常小学校，愛国心教育	・県政に非協力的な旧支配層のあり方を考えさせるとともに，県政による旧制度の改革の様子や教育制度のしくみと同化政策を含めたその内容等について理解させる。	上杉茂憲 第1回県費留学生 「沖縄対話」 明治の頃の小学校・ 脱清人のメンバー 大湾朝功
	25		(3)自由民権運動と土地整理事業① P74~ ・人頭税廃止運動 ・自由民権運動と謝花昇 ・土地整理事業	人頭税，宮古・八重山，奴隷以下の生活，人頭税廃止運動，城間正安，杣山問題，謝花昇，土地整理事業，沖縄の自由民権運動，地割制度，土地私有権，租税改革	・宮古・八重山の人頭税廃止運動や沖縄本島北部の杣山問題を通して，国政に参加する参政権運動へと発展していった過程を理解させるとともに，土地整理事業とも関係づけ何が人権問題なのかを考えさせる。.	人頭税石，宮古上布 謝花昇，県費留学生 奈良原繁，沖縄持論 農民負担額新旧比較

月	時間	単元	学習項目	学習内容 (キーワード)	ねらい	写真，資料 *現代との接点(モノ)*
1月	26	四　近代の沖縄	(3)自由民権運動と土地整理事業② P80~ ・県会の設置と国政参加 ・明治のころの産業 ・学問の発達	地方役人，地方制度の改革，区制－区役所－区長，郡制，1920 年地方自治の獲得，移出品 70 %砂糖，家内工業的手工業，県外への経済的依存度大，移入超過，沖縄学 伊波普ｭｳ，古琉球	・沖縄県における地方自治の歩みと明治期の産業構造を理解させるとともに明治期の教育界の現状と「沖縄学」とは何か，またその意義は何かを考えさせる。	地方自治制度のあゆみ 県会議員数及び有権者数 移出入の推移(1875 ～ 1920) 伊波普ｭｳ 普ｭｳの墓 古流球
	27		(4)ソテツ地獄の沖縄 ・砂糖景気と不況 P86~ ・ソテツ地獄 ・移民と出稼ぎ	第一次世界大戦，好景気，砂糖の値上がり，物価の暴落，不況，ソテツ地獄，食糧不足，身売り，移民，当山久三，ブラジルやペルー，本土への出稼ぎ	・第一次世界大戦前後の経済変動(好況・不況)と重税について理解させるとともに，なぜ，「ソテツ地獄」と呼ばれる食料不足が起こったのかを移民と合わせて考えさせる。	砂糖相場の推移表 サーター屋一 国税負担額表 ソテツの毒の抜き方 当山久三(移民の父) 海外移住者の推移 世界のウチナーンチュ大会
	28		(5)太平洋戦争と沖縄 ・戦争前夜の沖縄 P91~ ・本土の防波堤となる沖縄 ・沖縄での学徒動員 P97~ ・戦闘下における県民生活 ・6月 23 日	日中戦争，大東亜共栄圏，国家総動員法，太平洋戦争，ミッドウエー沖海戦，疎開命令，対馬丸，沖縄守備軍，十・十空襲，4月1日米軍上陸，沖縄戦，鉄血勤皇隊，ひめゆり部隊，集団自決，6・23 日沖縄戦終結，本土の防波堤	・太平洋戦争突入の経過や沖縄戦の様子を理解させるとともに，「なぜ沖縄戦は避ける事が出来なかったのか？」を「本土の防波堤」とからめて考えさせる。	太平洋戦争推進図 大政翼賛会設立 対馬丸沈没 10・10 空襲 アメリカ軍の侵攻図 健児の塔 ひめゆりの塔 戦争の様子 沖縄戦における戦死者数
2月	29		(6)映像 ～「沖縄戦の記録」～ VTR	艦砲射撃，米軍上陸，シュガーヒルの戦い，首里攻防，南部戦線，摩文仁	・炸裂する砲弾や飛び交う銃弾で，沢山の日米の兵隊，住民が命を落としていった様子を理解すると共に，戦争の究極の目的を考えさせる。	感想文シート
	30		ウチナーグチ入門③ ・うれー ぬー やいびーが ・くれー パソコン やいびーん ・簡単な音韻法則の例	うり(それ)，うれー(それは)，くり(これ)， き→ち[かき(垣)→かち]，ぎ→じ［くぎ（釘）→くじ]，ね→に[ふね(船)→ふに]	・たずねる文，答える文の会話練習を通して語感を味わう。 ・簡単な例を示して，日本語と琉球語の関係における音韻法則の存在に気づかせる。	会話文等の資料 桃太郎(ウチナーバージョン)音読 「なだそうそう」，「神田川」のウチナーバージョン，*CD*
	31	五　戦後の沖縄	(1)終戦直後の沖縄 ・敗戦と沖縄 P101~ ・終戦直後の県民生活	ポツダム宣言，米国民政府，琉球政府，捕虜収容所，かやぶき校舎，B円(軍票)	・終戦直後の沖縄統治のしくみと，「沖縄の住民はねずみである。」の意味を考えさせるとともに，捕虜収容所の生活の様子やその後の生活の様子を理解させる。	ポツダム宣言 沖縄統治機構図 捕虜収容所(石川・屋嘉など) かやぶき校舎・授業，B円 沖縄戦直後の人口ピラミッド
	32		(2)基地のなかの沖縄 P105~ ・サンフランシスコ平和条約 ・基地の強化と反対運動 ・基地と県民生活	太平洋の要石，サンフランシスコ平和条約，日本独立，日本復帰促進期成会，土地を守る四原則，島ぐるみ闘争，基地経済，核爆弾	・サンフランシスコ平和条約の締結により日本は独立するが，沖縄では米軍支配が決定されていく過程を理解させるとともに，米軍支配下における屈辱的な諸問題について考えさせる。	平和条約 3 条，土地強制収用 プライス勧告に抗議 島ぐるみ闘争 基地労働者 コザ市，ドル札，全軍労 Ｂ５２爆撃機，パスポート
3月	33		(3)もりあがる復帰運動 ・復帰運動の高まり P110~ ・主席公選と国政参加 ・B52 撤去のたたかい	太平洋の孤児，祖国復帰運動，国政参加要求，主席公選，琉球政府，戦略爆撃機Ｂ 52 撤去運動	・祖国とは何か，祖国復帰運動はなぜ必要だったのか，祖国復帰をすることで何がどのように変わって行くのかを考えさせる。	祖国復帰運動 北緯 27 度線海上大会 主席公選要求 Ｂ 52 墜落事故 コザ騒動
	34		(4)復帰後の沖縄 P117~ ・祖国復帰の実現 ・沖縄海洋博覧会 ・交通方法の変更	祖国復帰(1972・5/15)，米軍基地，米軍人による犯罪，沖縄国際海洋博覧会，七・三〇交通革命	・祖国復帰の実情が県民の望んでいたものとは違っていたことを理解させ，なぜ，違ってきたのかを考えさせるとともに，沖縄の未来を展望させる。	祖国復帰実現(新聞)，沖縄海洋博覧会，7・30，県道 104 号越え，沖縄のおもな軍事基地，不発弾処理作業風景，復帰の評価(グラフ)，第一回トライアスロン宮古島大会
	35		まとめ	自己評価 一年間のまとめ(感想文)	・沖縄の歴史学習を通して何を学び合い，郷土の発展についてどのような思いを抱くようになったのかまとめる。	感想文シート 自己評価シート

◆年間指導計画(テキスト：「沖縄県の歴史」を活用，沖縄県中学校社会科教育研究会編)

③　各指導案の作成

各時間の指導案を作成する。指導案の作成にあたっては，「思考力・判断力」を育成し，「興味・関心」を育むことを念頭に置きながら次のことを心がけた。すなわち，指導案のなかに，ア　生徒の活動，イ　班活動，ウ　表現・発表，エ　現代との接点等を取り入れる構成を考え，「共に学び合う」授業の展開を試みたことである。（検証授業指導案参照 P13）

④　ワークシート作成

授業の展開において，必ずテーマを設定し「考え」させることを心がけた。考える時は一人の時もあるが，基本的にグループでみんなの力を出しあって，「ああでもないこうでもない」と各自の考えや意見の擦り合わせを行い，テーマの解を導き出す。それは「みなで学び合う」授業を構築し「背伸びとジャンプ」をさせるためである。また，

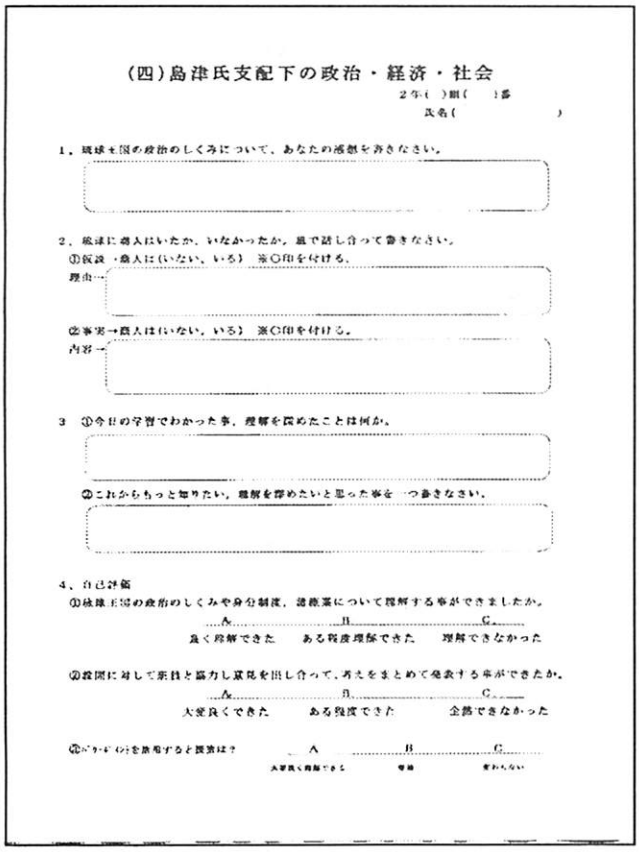


図５　ワークシートの例

今までの穴埋め式のワークシートには，限界を感じている。穴埋め式のワークシートを活用すると授業の展開そのものに深みがなく，一斉授業的な雰囲気に陥ってしまい，教師だけが頑張っている状態になるのでやがて飽きがくる。生徒の「思考力・判断力」を育み，「興味・関心」を育てるためにもテーマを設定し，みんなで考え学び合えるようにした。（検証授業のワークシート）

⑤　板書事項（パワーポイント活用）

当初の考えは，フラッシュカードを作成して板書時間を短縮し，話し合い活動や考える時間を増やそうと考えた。しかし，研究所にてパワーポイントの活用方法を知るに及び，フラッシュカードをやめてパワーポイントを利用する事にした。同じ効果，それ以上の効果がパワーポイントの活用によって期待することができたからである。写真や資料等も手軽に取り込め，文字も色を付けたり太くしたりして強調することができる。生徒の興味・関心等を育み，理解も深まることが予想される。

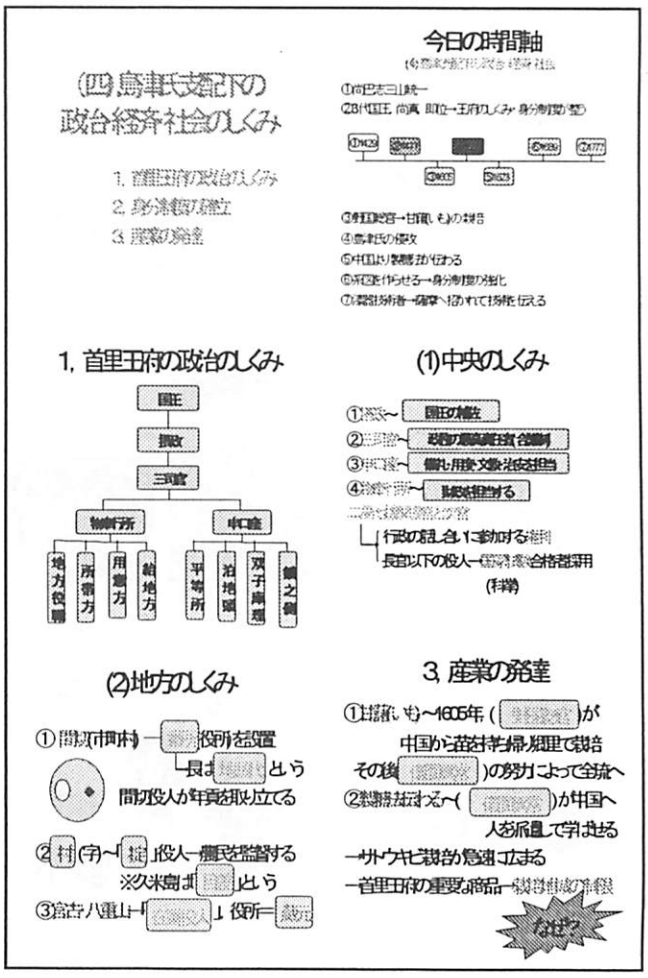


図６　パワーポイントの板書事項の例

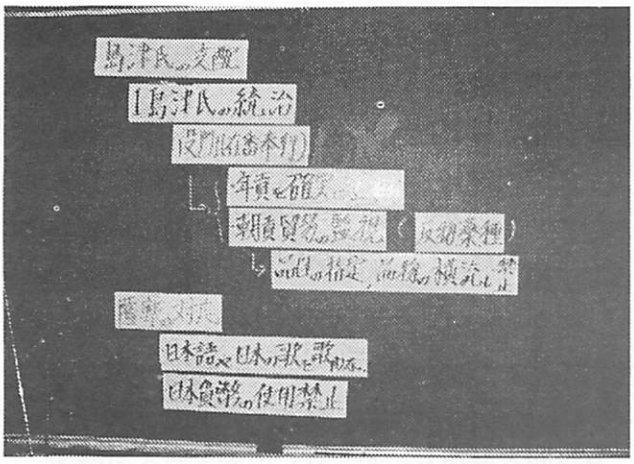


図７　フラッシュカードの板書事項例

⑥　写真資料

教科書の内容に沿って，関連する写真資料等を意図的に収集する。その資料を用いて，その時代の様子を浮き彫りすることや，「考えさせる」資料としても活用する。また，生徒の興味・関心を喚起し理解を深めるようにしていきたい。

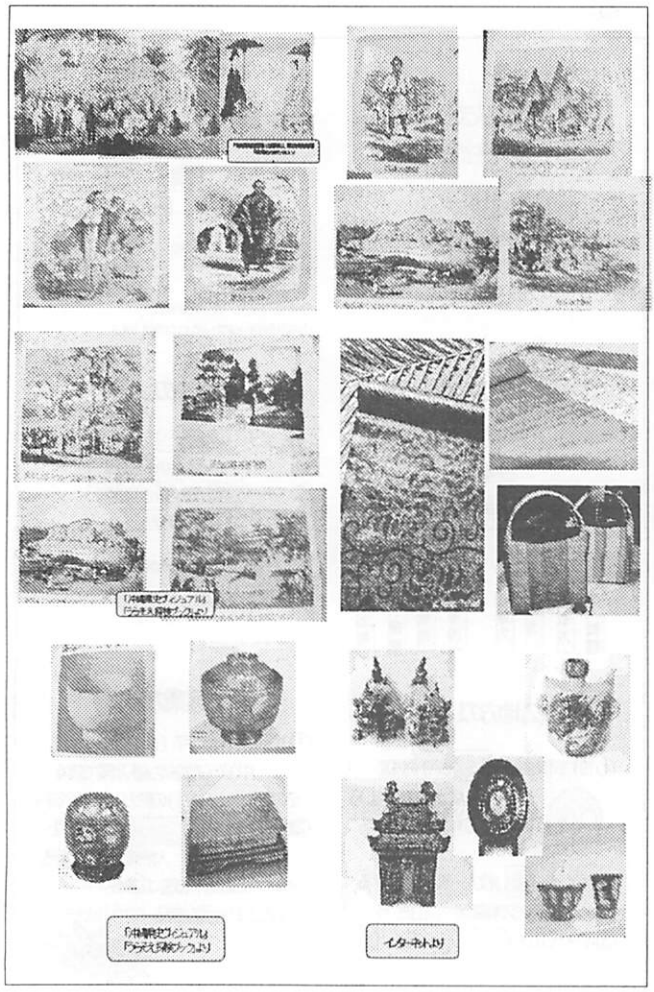


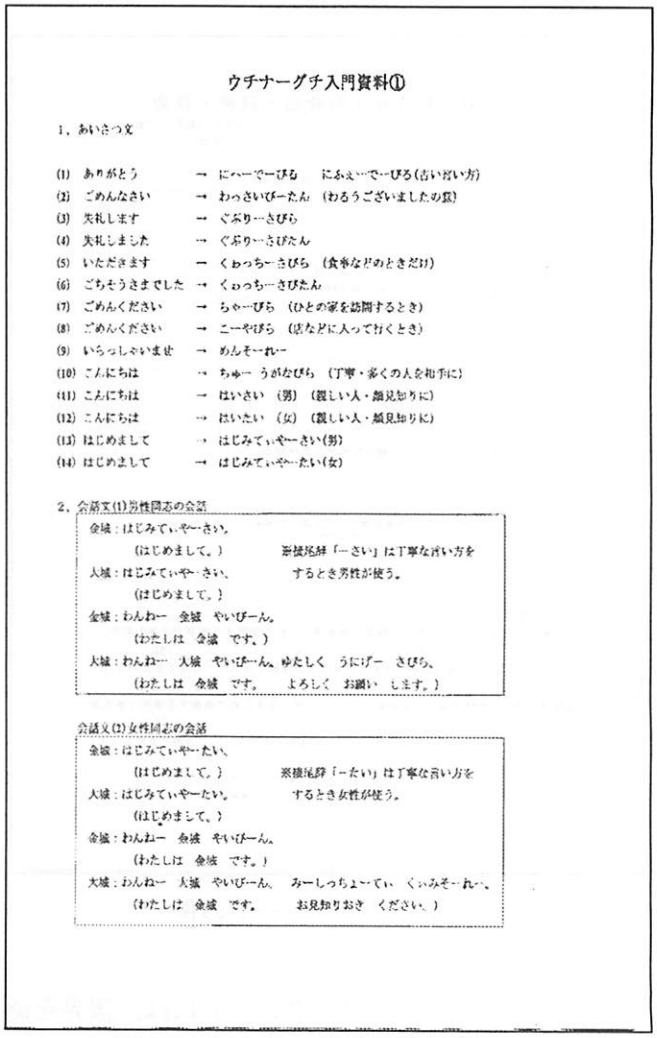
図８　　写真資料の例

⑦　ウチナーグチ入門資料

選択授業の項目を選ぶにおいて，なぜ，「沖縄の歴史」を選んだのか。という質問に対して「ウチナーグチ＝沖縄方言を学べるから」と言う生徒が33名中13名いた。授業内容を勘違いしていたにせよ，ウチナーグチに対する関心の高さにはびっくりする。

たまたま，琉球大学で「ウチナーグチ入門初級・中級」を聴講していたので，その時の資料を活用して３時間ほど取り入れてみて反応をみることにした。

琉球語の使用は意図的な政策の基に，学校現場では禁止となり喪失していった。このことを考えると複雑な気持ちになる。いずれにしても，沖縄の文化や歴史を深く理解していくうえで，ウチナーグチの学習もまた大切ではなかろうか。（１時間目の資料）



ウチナーグチ入門資料①

1．あいさつ文

(1)　ありがとう　→　にふーでーびる　にふぇ…で…びろ(古い言い方)
(2)　ごめんなさい　→　わっさいびーたん　(わるうございましたの意)
(3)　失礼します　→　ぐぶり…さびら
(4)　失礼しました　→　ぐぶり…さびたん
(5)　いただきます　→　くわっち～さびら　(食事などのときだけ)
(6)　ごちそうさまでした　→　くわっち…さびたん
(7)　ごめんください　→　ちゃ…びら　(ひとの家を訪問するとき)
(8)　ごめんください　→　こーやびら　(店などに入っておくとき)
(9)　いらっしゃいませ　→　めんそーれー
(10)　こんにちは　→　ちゅー　うがなびら　(丁寧・多くの人を相手に)
(11)　こんにちは　→　はいさい　(男)　(親しい人・顔見知りに)
(12)　こんにちは　→　はいたい　(女)　(親しい人・顔見知りに)
(13)　はじめまして　→　はじみていぞーさい(男)
(14)　はじめまして　→　はじみていぞ…たい(女)

2．会話文(1)男性同志の会話

金城：はじみていぞ…さい。
　　(はじめまして。)　　※接尾辞「ーさい」は丁寧な言い方をするとき男性が使う。
大城：はじみていぞ…さい。
　　(はじめまして。)
金城：わんねー　金城　やいびーん。
　　(わたしは　金城　です。)
大城：わんねー…　大城　やいびーん。ゆたしく　うにげー　さびら。
　　(わたしは　金城　です。　よろしく　お願い　します。)

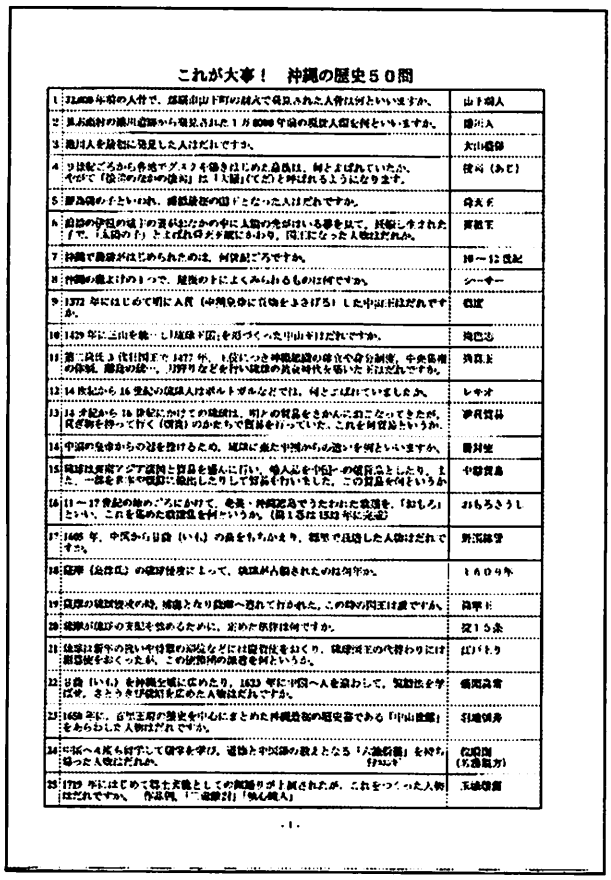
会話文(2)女性同志の会話

金城：はじみていぞ…たい。
　　(はじめまして。)　　※接尾辞「ーたい」は丁寧な言い方をするとき女性が使う。
大城：はじみていぞ…たい。
　　(はじめまして。)
金城：わんねー　金城　やいびーん。
　　(わたしは　金城　です。)
大城：わんねー　大城　やいびーん。　みーしっちゅーてい　ぐぃみそーれ…。
　　(わたしは　金城　です。　お見知りおき　ください。)

図９　ウチナーグチ入門資料

⑧　沖縄の歴史 50 問

基礎的な問題と思われる内容を掲載した。先輩の先生方から頂いたテスト資料に手を加え，更に同僚の先生が修正・加筆等を行ったものである。使用方法としては，３時間目あたりにこの問題を実施して解答し解説していく。これから学ぶ沖縄の歴史の内容把握と沖縄の歴史に対する知識度のチェックをはかりたい。そして，各学期に１回豆テストを実施するにあたり，この問題の中から繰り返し出題して，基礎的な事項を習得させたい。



これが大事！　沖縄の歴史５０問

1	31,000年前の人骨で，那覇市山下町の洞穴で発見された人骨は何といいますか。	山下洞人
2	具志頭村の港川遺跡から発見された１万8000年前の旧石器人骨を何といいますか。	港川人
3	港川人を最初に発見した人はだれですか。	大山盛保
4	9世紀ごろから本格的グスクを築きはじめた豪族は，何とよばれていたか。やがて「按司のなかの按司」は「大按司」（てだ）と呼ばれるようになります。	按司（あじ）
5	源為朝の子といわれ，浦添按司の娘婿となった人はだれですか。	舜天王
6	浦添の伝説の城主の妻が夢のなかの中に太陽の光がはいる夢を見て，妊娠し生まれた子で，「太陽の子」とよばれるようになったのは，何王になった人物はだれか。	英祖王
7	沖縄で農業がはじめられたのは，何世紀ごろですか。	10～12世紀
8	沖縄の墓はすべて，屋敷の中によくみられるものは何ですか。	シーサー
9	1372年にはじめて明に入貢（中国皇帝に貢物をささげる）した中山王はだれですか。	察度
10	1429年に三山を統一し「琉球王国」を築いた中山王はだれですか。	尚巴志
11	第二尚氏３代目国王で1477年，１月にっき沖縄統治の確立や身分制度，中央集権の体制，階級の設一，刀狩りなどを行い琉球の黄金時代を築いた王はだれですか。	尚真王
12	14世紀から16世紀の琉球人はポルトガルなどでは，何とよばれていましたか。	レキオ
13	14世紀から16世紀にかけての琉球は，明との貿易をさかんに行なってきたが，貢ぎ物を持って行く（朝貢）のかたちで貿易を行っていた。これを何貿易というか。	朝貢貿易
14	中国の強奪からの難を逃れるため，琉球に来た中国からの使いを何といいますか。	冊封使
15	琉球は朝貢マシて通商と貿易を盛んに行い，唐人屋を中国の領事館としたり，また，一部を倉庫や商館に転用したりして貿易を行いました。この貿易を何というか	中継貿易
16	15～17世紀の始めごろにかけて，奄美・沖縄諸島でうたわれた歌謡を，「おもろ」という。これを集めた歌謡集を何というか。（第1巻は1532年に完成）	おもろさうし
17	1605年，中国から甘藷（いも）の苗をもちかえり，那覇で栽培した人物はだれですか。	野国総管
18	薩摩（鹿児島）の侵略攻撃によって，琉球が占領されたのは何年か。	１６０９年
19	琉球の侵略攻撃の時，捕虜となり鹿児島へ連れて行かれた，この時の国王は誰ですか。	尚寧王
20	薩摩が琉球の支配を強めるために，定めた法律は何ですか。	掟１５条
21	琉球は新年の祝い中秋節の祝宴などには儀礼を行い，琉球国王の代替わりには冊封使をおくったが，この使節団の総者を何というか。	江戸上り
22	甘藷（いも）を沖縄全域に広めたり，1623年に中国へ入貢渡航し，製糖法を学び，さとうきび栽培を広めた人物はだれですか。	儀間真常
23	1650年に，首里王府の歴史を中心にまとめた沖縄最初の歴史書である「中山世鑑」をあらわした人物はだれ ですか。	羽地朝秀
24	中国へ4度も渡って儒学を学び，薩摩と中国間の教えとなる「六諭衍義」を持ち帰った人物はだれか。	程順則（名護親方）
25	1719年にはじめて琉球王朝としての編纂が上梓されたが，これをつくった人物はだれですか。　作品例，「一蓮寺」「鳴人」	玉城朝薫

-1-

図 10　沖縄歴史問題 50 問

(3)　パワーポイントの活用や写真資料等の収集とその効果的な活用方法

①　パワーポイントの活用について

特に選択授業（沖縄の歴史）において，パワーポイントの活用は有効である。なぜならば時数とテキストのページ数の関係からである。35 時間の枠はあるけれども流動的であり，ページ数においては，１時間に７ページから８ページ前後進む事がざらにあるからである。そこで問題になるのが，まとめのための板書事項である。内容的に多すぎるし煩雑になる。生徒も疲れるしまとめが嫌になるであろう。強いては授業が嫌いになる事が予想される。最悪の状態である。

そこで，パワーポイントを活用すれば解決できる。10 ページ前後の内容を写真や資料と織り交ぜながら，板書事項をまとめておくのである。まとめの段階でパワーポイントで流せばよい。本当に時間もかからない。おまけに，板書事項は「配付資料」としてプリントアウトできる。結論として，35 時間分の板書事項をパワーポイントでまとめ，いつでも活用できるようにしておく。また，便利なことにいつでも修正が可能である。

②　写真資料の収集方法について

まず，テキストに添って単元ごとに必要な資料や写真をリストアップする。リストアップするが，それは方向性を示すための参考である。それをいちいち探し回っていたら時間がかかって，大変難儀をし合理的ではない。

次に，テキストに添って単元ごとのフォルダを作り，使えそうな写真資料をそれぞれ収集しておく。大体，多い時には 25 枚前後になったりする。とりあえずこの中から 10 枚ぐらい選んで授業を組み立てておく。板書事項との構成もこのときに考える。

最後に，その他の分類用のフォルダを作っておく。例えば，「墓」の項目を作って墓に関する写真資料をこのフォルダに保存しておき，必要に応じて取り出して使う。例えば，玉城朝薫，宜湾朝保，蔡温，羽地朝秀などの墓，あるいは経塚の古墳墓群跡などである。墓の変遷を考え人々の生活を複合的に理解させる授業も成り立つ。

収集方法としては，写真集やパンフレット，新聞などからの収集以外に，自分の足で歩いてデジタルカメラ等で写した写真を保存しておき活用する事である。

Ⅶ　授業実践

1　単元名

「三　島津氏の支配と王国の移りかわり」

2　単元目標

(1) 島津氏の侵入により琉球王国が幕藩体制に組み込まれていった過程とその意味を理解する。

(2) 近世琉球の政治・経済・社会のしくみ等を通して王国の抱える問題や課題を浮き彫りにする。

(3) 被支配階級の人々の生活を通して社会の実情にせまり多様な思考性を育む。

3　単元の設定理由

(1) 教材観

琉球王国の政治のしくみや身分制度，産業について凝縮された形でまとめられている。政治のしくみでは国王を頂点とする政治制度が整備され，役人の任命に当たっては試験を課すなど現代と重なってくる部分があり興味深い。また，地方統治のしくみについても離島を含めた支配の姿が浮き彫りになり王国時代の政治機構を理解するのに役立つ部分である。さらに，人々の生活の様子が身分制度を通して理解され，現代と対比することでより当時の生活の実態を浮き彫りにできる内容である。

産業に至っては長い歴史の風雪に耐えて伝統文化として現代に継承されているものもある。その一つ，宮古上布についての理解を深めさせるために，カラムシ(苧麻)の茎より糸を取り出す体験学習を取り入れ，延々と現代に受け継がれている事を実感させる。当時と現代の接点を考えさせるうえで，適したモノ(カラムシ)があり意義深い教材である。ややもすると1時間扱いでは多すぎる内容である。

(2) 生徒観

男子27名女子9名，合計36の選択授業である。特徴は女子が少なく男女比のバランスに欠け，おまけに生徒の心情としてはリラックスしながらの授業を期待している。あくまでも社会科の授業の延長では困るのである。

この生徒のニーズに答えていきながら，こちらの意図する方向へ，生徒を巻き込んでいくことが当面の課題である。最近は，プレゼンテーションのパワーポイントを活用して変化を持たせる事にした。生徒達の沖縄の歴史に対する関心は高く，思い違いも含めて 70 %近くの生徒がこのコースを希望してやってきた。しかし，話し合い活動や発表力の力をつけるために，このコースを希望して来たわけでは決してない。生徒たちの心情的な現実とのズレをくみ取りながら，こちら側の意図する力を培っていければと願っている。

4　指導計画(全6時間)

時間	項　目
1	(一)島津氏の琉球侵入
2	(二)島津氏の支配
3	(三)羽地朝秀と蔡温の政治
4	(四)島津支配下の政治・経済・社会　(本時)
5	(五)沖縄文化の発達
6	(六)琉球王府の動揺

5　本時の指導(4/6時間目)

〔(四)島津支配下の政治・経済・社会〕

(1) 目標

① 琉球王国の政治のしくみや身分制度，諸産業について理解する。【知識・理解】

② 政治のしくみに対する感想や商人の存在ついて考察を深め発表する。【思考・判断，技能・表現】

(2) 授業仮説

① 話し合い活動や発表を通して，より深く物事を考え理解し，共に学び合う場が育まれていくであろう。

② パワーポイントを活用し，写真，資料など視覚に訴えることによって，興味・関心が高まり，理解も深まり，生徒が楽しいと思う授業を創ることができるであろう。

(3) 展開

△一斉　　⬡班活動

展開	形態	生徒の活動	教師の支援と評価	留意点
導入	△	①聞く ②教科書を音読し内容を把握する。 ③全員前に出て書く。	①今日の学習内容を示す。 ②音読をさせる→机間巡視。 ③読んで理解できた事を発表させる。 (板書)　【評価】 ④事項を把握しつなぎを確認をする。	(活動１) 【知識・理解】
展開	⬡	⑥各自，付箋紙に書いてまとめる。 ⑦発表を聞くという態度を示す。 ⑧資料を読み取り，班員の意見を擦り合わせて，仮説を立ててまとめる努力をする。 ↓ ・ワークシートにまとめる。 ↓ ・発表する。 ・他の発表を聞く態度。 ⑩体験的に糸を作る(途中まで)	⑤１，首里王府の政治のしくみを説明する。　↓ ⑥ 王国の政治のしくみについての感想を書かせる。(各自まとめる)　【評価】 ↓ ⑦　(案 1) 発表させる(全員起立)。 (案 2)希望者にさせる ⑧２，身分制度の確立について ア　身分制度，服装などの絵から商人の存在について考えさせる。 イ　次の設問を与える。 「(1)琉球に商人はいないのか。なぜいないのか。」その理由(仮説)を考える。 「(2)いたなら，なぜ，載っていないのか。いたなら，どのような商売をしていたのか。」それぞれの理由(仮説)を班のみんなで考える。【背伸びとジャンプ】 ↓　【評価】 発表 ⑨産業の発達を説明して終る。 (時間があれば栽培地域の制限がなぜかを発表させる) ⑩苧麻の実物を提示する。　【モノ】	・パワーポイントで ・アイヌや幕府との対比で考える 【興味・関心】 ←ワークシート配布 (活動２) 【思考・判断】 結論→いる，いない 仮説→(　　) ←用紙にまとめる マジック・用紙配布 →部落差別 →百姓一揆 【興味・関心】 作業　(活動３)
まとめ	△	⑫ワークシートにまとめて発表する。　↓ 提出する。	⑪パワーポイントで今日のまとめをする ⑫今日の学習で理解を深めたこととともっと勉強してみたいと思った事を一つずつ発表させる。　【評価】	【興味・関心】

(4)　本時の評価

① 琉球王国の政治のしくみや身分制度，諸産業について理解する事ができたか。

② 感想を書くことや設問に対して，班員と協力し考えをまとめ発表する事ができたか。

Ⅷ　研究の考察

1　作業仮説(1)の検証

> 話し合い活動や発表を通して，より深く物事を考え理解し，共に学び合う場が育まれていくであろう。

(1) 手だて

上の仮説を検証するために，一斉授業の学習形態を崩していく方向性を取った。その方法の根底には，「ア生徒の活動を取り入れる。イ班活動を取り入れる。ウ表現・発表の場を設ける。エ現代との接点をつくり出すこと」がある。これらを授業の中に取り入れてみることである。これらの視点ア，イ，ウは富士市立岳陽中学校の学校改革の中に出てくるプランを参考にした。

このアからエの一連の展開において，上記の仮説が検証できると思われる。ここでは手だてとして班活動を中心に取り上げた。

(2) 結果

①　アンケート調査結果より

ア　「あなたは話し合い活動(聞いたり，質問したり，相談したり，意見のやりとりなど)をすることができましたか」

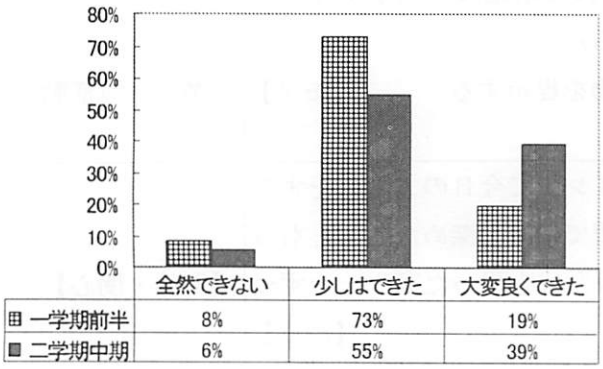


図11　　話し合い活動の比較

(結果)

図 11 の二つのグラフを比較すると，話し合い活動が「全然できない」生徒が前期も中期も数%いる。大きな変化は，中期になると「少しはできた」項目の割合が 73%から 55%へ減少し，「大変良くできた」割合が 19%から 39%へ増加した事である。

別のアンケート項目「あなたは設問に対してグループで考えた方が良いですか，一人で考えた方が良いですか」では，「グループで考える方が良い」が 71%を占め多数である。「どちらでも良い」が 26 %，「一人で考える」が 3 %で少数である。

イ　「班活動を通して，より深く物事を考え理解し，お互いに学び合う事ができたか。」

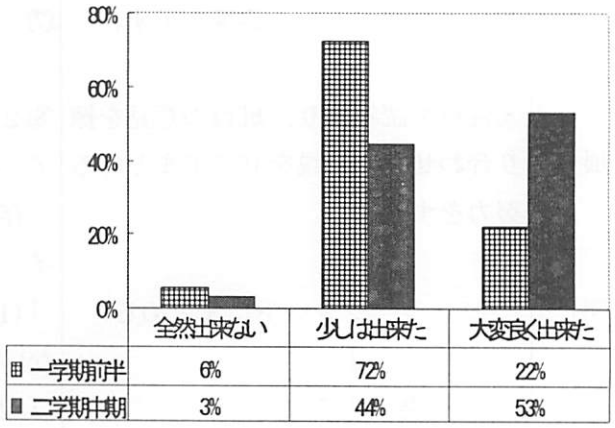


図12　より深く物事を考え，お互いに学び合う事ができたか

(結果)

図 12 のグラフについて，話し合い活動の中で，弁証的なやりとりができるようになってきたと思われる。相変わらず「全然できない」生徒もいるが，「少しはできた」項目が前期 72%から後期 44%へ大幅に減少し，「大変良くできた」項目が 22%から 53%へ増加している。この変化と意識付けは検証授業等のエポックも影響しているものと思われるが，具体的には考察のところで生徒たちの理由を述べてみたい。いずれにせよ，班活動を取り入れ設問を設けて考えさせる事は，「より深く物事を考え，お互いに学び合う」事を育む上で有効であると思われる。

ウ　「発表力について，分かりやすくまとめ，大きな声で発表することができたと思いますか」

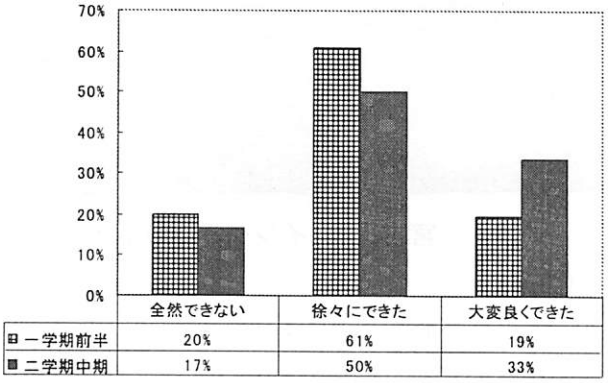


図13　分りやすくまとめ，大きな声で発表することができたか。

（結果）

一学期前期と二学期中期のグラフを比較すると「全然でできない」の項目は一学期前期 20 %から二学期中期 17 %へ，「徐々にできた」の項目は一学期前期 61 %から二学期中期 50 %へ減少し，「大変良くできた」の項目は一学期前期 19 %から二学期中期 33%へと増加している。一学期「徐々にできる」生徒たちの中から更によくできるようになった事を意味する。全体的にプラスの成果が現れていると思うが，「全然できない」生徒が約 20%近くいることが気掛りである。

(3)　（考察）

図 11 のグラフの比較により，中期になると「少しはできた」が 73%から 55%へ減少し，減少した分が「大変良くできた」19%から 39%へと増加に転じている。このことから話し合い活動のノウハウを獲得し，要領を得ていったものと思われる。元々，「グループで考える方が良い」と答えた生徒が 71%もいて，その理由が合理的である。その理由は「おしゃべりはするかもしれないけど沢山質問できる」，「みんなの考えが聞ける」，「いろいろ相談できる」「分らないところを教え合える」，極めつけは「いろいろな考えがあり楽しい」である。「どっちでも良い」の理由は冷静である。「どっちも良い点悪い点があるから」，「どちらも集中とやる気があれば大丈夫だから」である。「一人で考える」の理由も前向きである。「集中で　きて次に進める」からである。

以上の事を踏まえて，話し合い活動はより効果的な学習形態の一つであり，後期になるとこの取り組みの成果が，もっと現れてくることが予想される。

図 12 のグラフにおいて，「大変良くできた」項目の理由は，「『何でこうなるの？』と言われて，『何でだろう』ってまた考えるし，自分でわからない所を聞くとみんなが教えてくれたから」，「話し合いをするといろいろな意見や考えなどが出るので学び合える」，「いろいろな意見が聞けて，討論して世界が広がる」，「少しはできた」項目の理由は「意見を言い合って，最後は相手の意見を理解した」，「分からない事は班の人に聞いたりして，教え合ったから学び合う事ができた」など，意見や考えなどの交流，擦り合わせが見える。

一人では解けないけど，みんなの力を合わせて解けるような課題を設定してあげる。その課題を通して議論し合う過程で，生徒たち一人一人の中で「背伸びとジャンプ」が行われるようになる。このことが強いては生徒の言う「楽しい授業」や「興味・関心」のもてる授業」へと発展していくと思われる。それは「一人一人がいろいろな質問をする」，「グループになっていろいろな問題を解く」，「自分の知らなかった事が分るようになるとき楽しい。しかも，頑張ろうって思える」「みんなで話し合いをしたり，体験したりする授業」などの感想からも推察できる。

図 13 のグラフにおけるプラスの変容は緩慢ではあるが認めることができる。課題は「全然できない」生徒が 20%近くいることの把握と，それへの対策を立てて取り組む事である。

生徒に対して，「発表する事によって付いてくる力は何か」を問うと次のような感想が返ってくる。「発表する事によって自信や勇気がつく」，「発表するときは自分の意見をみんなに知ってもらえ

るし，みんなの意見も聞けるから，いろいろな考えができるようになると思う」，「発表はドキドキするけど，自分の意見を言える力が付いてくると思う」，「答えが当たっているときには嬉しい」などである。

このような思いを秘めながら，日々の活動に取り組み，少しづつコミニュケーション能力を身につけていく事が予想される。

② 現代との接点(カラムシから糸を紡ぐ)より

各授業の展開の中で，「現代との接点」を考えてみることにした。すなわち，「生徒の活動を取り入れる」時の具現化である。検証授業においては，カラムシ(苧麻)から糸を紡ぐ体験的作業を取り入れた。実際は時間がなくて後日その作業を実施した。反応がとても良く今後の授業展開を考える上で大きな示唆を得た。

図14　カラムシ

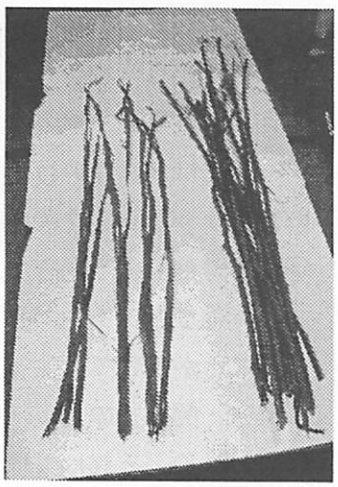


図15　カラムシの枝

図16　皮を剥ぐ

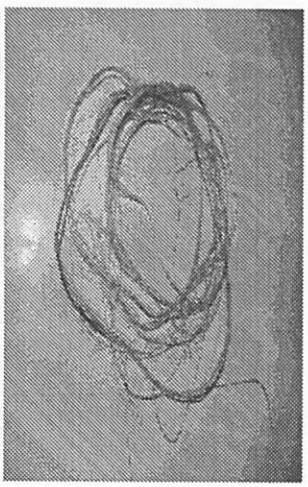


図17　糸を作る

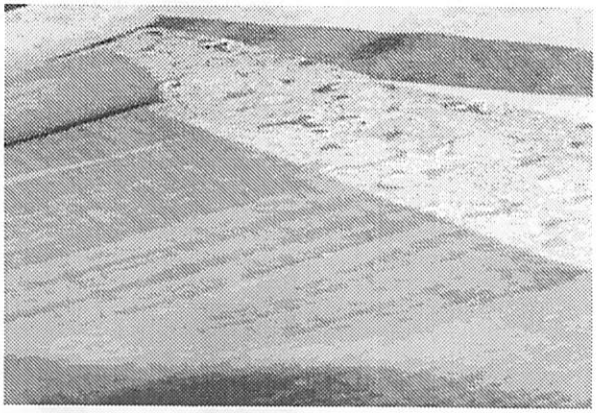


図18　宮古上布(インターネットより)

(結果)

この「活動を取り入れた」授業は，生徒にとってやがて「楽しい授業」や「興味・関心の持てる授業」へと発展していく事を感想文から読みとる事ができる。

「前の授業みたいにカラムシ(苧麻)を実物でさわってみるとかが楽しい授業」，「こんな草の枝から糸ができるなんてすごいと思った。とても楽しかったのでまたやりたいです」，「時間が短いと思った。めっちゃ楽しくて終わりって言われてもしたかった」，「くさかった。あの糸がどのようにして織物に変わるのかを見たい」，「こんなめんどうくさいものを何百本も作るなんて，すごいと思った」，「身近にありそうな枝葉が何百万円にもなる織物になるなんてすごいなー。興味があるので実際に体験したい」などである。

(考察)

要するに，「現代との接点」を念頭に置きつつ授業を構築していく事によって，話し合い活動や発表に潤いを与え，さらにより深く物事を考えるきっかけを与え，うまくお互いが学び合う雰囲気と場を形作っていく事が予想される。

何よりもモノを媒介とした活動において，その当時の時代の様子や雰囲気を体験的に学習する事が大切ではないだろうか。それは経験に裏打ちされた生きた知識であり，次の新たなる興味・関心を呼び起こす契機となる。やがてその興味・関心は積み重なっていき，探求せずにはいられなくなっていくであろう。さらに現実的な視点で見つめると，「退屈な授業ではなくなる」ということで

あるが，「楽しい」という事の意味を吟味し自問する必要がある。また，「現代との接点」を繋ぐモノをいかに考え出すか思案のしどころである。

2　作業仮説(2)の検証

> パワーポイントを活用し，写真，資料など視覚に訴えることによって，興味・関心が高まり，理解も深まり，生徒が楽しいと思う授業を創ることができるであろう。

(1) 手だて

生徒に興味・関心を持たせ，且つ，授業の内容についての理解も深めさせて，しかも楽しい授業となるような手だてを模索した。その方法がパワーポイントの有効活用である。内容を二つに分けて考えてみると次のようになる。

① パワーポイントの活用を通しての板書事項の工夫

② パワーポイントの活用を通しての写真・資料の活用工夫

(2) 結果

① アンケート調査より

ア 「板書事項についてチョークを使ったときとパワーポイントを使ったとき，どちらが分かりやすい(理解しやすい)授業ですか。」

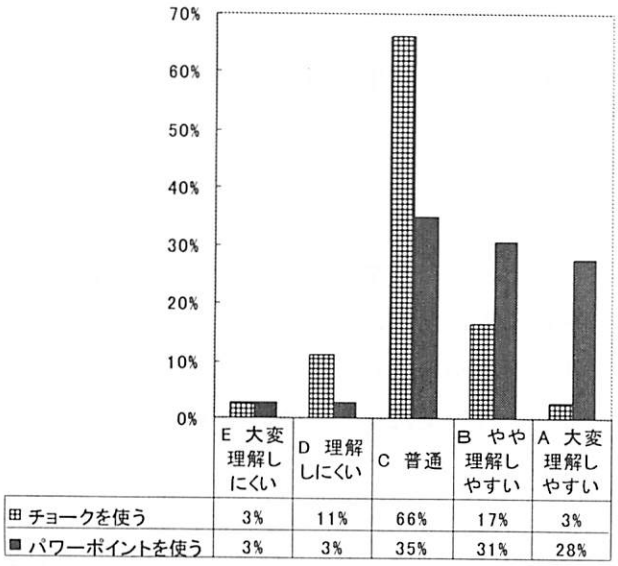


図19　チョーク使用とパワーポイント使用の比較

(結果)

チョークを使って書いた板書事項では，「C普通」66 %を頂点に左右ピラミッド型を形成している。それぞれ，「Bやや理解しやすい」17 %，「A大変理解しやすい」3 %，「D理解しにくい」11 %，「E大変理解しにくい」3 %である。それに対して，パワーポイントを活用した板書事項の項目では，Cを中心にB，Aの比重が多くなり，全体的にD，Eの数値が低くなっている。

グラフの比較から，生徒にとって全体的にパワーポイントを活用した板書事項の方が理解しやすい事が読み取れる。

イ 「写真・図・資料等を説明するとき，パワーポイントを活用した授業と活用しない授業では，どちらが分りやすい(理解しやすい)授業ですか。」

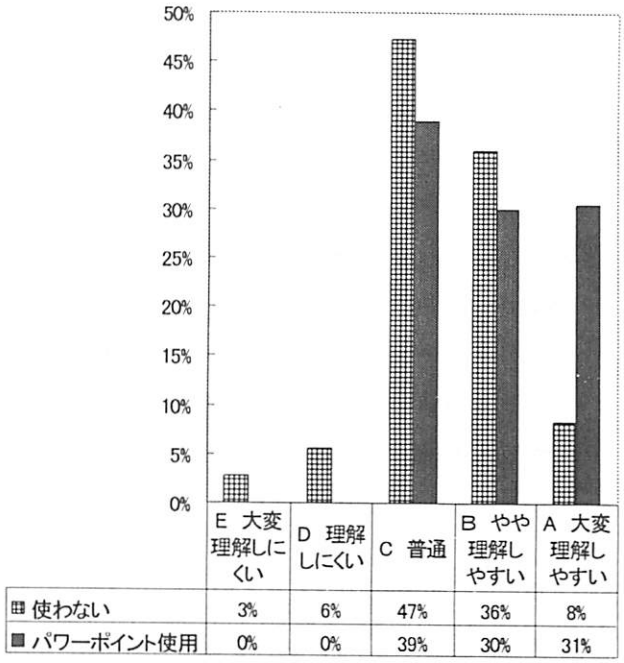


図20　写真・図・資料の説明比較

(結果)

パワーポイントを使わない時は，それぞれ「E大変理解しにくい」3 %，「D理解しにくい」6 %，「C普通」47 %，「Bやや理解しやすい」36 %，「A大変理解しやすい」 8 %である。印刷物を配布して説明した授業では「理解しにくい」「理解

しやすい」所の数値が低い。それに対して，パワーポイントをもちいて説明した授業では，「E大変理解しにくい」,「D理解しにくい」が0となり，「A大変理解しやすい」の数値が 36%と上昇している。全体的に右側にグラフの伸びが集中している。

パワーポイント使用時とそうでないときのグラフ比較で顕著なのはE，D，Aの項目である。すなわちパワーポイント使用時「理解しにくい」が0%になり，Aの「大変理解しやすい」割合が急増している事である。

(3) 考察

図 19 のグラフにおいて，BやAの「理解しやすい」「大変理解しやすい」理由として，「楽しく文字を表示している」,「色が付いていて見やすいと思う」,「大事なことが太文字で書かれたり色を使い分けたりしているから，分かりやすく見やすい」,「大切なポイントだなってところがすぐに分かるから，パワーポイントの授業は分かりやすかった」,「歴史の重要な所とかを編集できるし，分かりやすく頭に入りやすい」などをあげている。

授業理解の手助けとして，色文字，太文字，アニメーションなどの活用は，生徒にとって分りやすく理解しやすい条件になっていると思われる。また，色遣いやアニメーションなどは興味・関心を喚起する材料にもなり，「絵や写真も入れられるので分りやすく楽しい授業になる」と感想を述べている。

気になるのは「C普通」の割合が多いことである。その理由として，今までチョークを通しての板書事項に慣れているために相対的な比較に戸惑っているためと思われる。フラッシュカードを用いたやり方も加えて相対的な比較をすることも必要であろうが，やはり，結論としては「沖縄の歴史」に限り，チョークを用いて行う板書事項は「理解しにくい」という事だと思われる。

しかし，今のところ教室からチョークが消えてしまう日は来ないであろうし，チョークを使って素晴らしい授業の展開をする事は可能であり，多くの先生方が実践している事である。

図 20 のグラフにおいて，パワーポイントを使用した時のAやBの理解しやすい理由として「写真や図が大きくて見やすい」,「『これ見て』って言われてもわからないときがあるけど，パワーポイントなら画面を見れば分かるからそこがいい」,「絵や写真等があるので楽しい授業となる」,「カラーでそのときの細かい服装とかも理解できるから」「すぐに違う場面が出てきて，早くて分りやすい」「絵などがしっかり見えたりする」などである。

いずれにしても写真・図・資料等を説明する時パワーポイントを使って説明した方が生徒にとって分りやすい事が理解できる。それは「理解しにくい」割合が0%になり，逆に「A大変理解しやすい」割合が急増しているからである。また,「『楽しい授業，興味・関心のもてる授業』とはどんな授業ですか」という質問に対して，次のように述べている。

「分りやすく授業をする」が最も多く，「絵や資料を使ったり，その時と現代との相違点を見つけながらやると楽しくなると思う」,「いろいろな写真を見せたり詳しく説明したりする」などがある。すなわち，写真・図・資料等を活用した授業は，生徒の興味・関心を呼び起こし，授業の理解を深めさせ，強いては楽しい授業へと発展していくものと思われる。

Ⅸ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 成果の一つに授業形態の転換が上げられる。転換といっても大げさではなく，今までのややもすると一斉授業一辺倒の形態へ班活動の要素を取り入れただけの事である。例えば，一斉授業の形態から入り途中で班活動に移り締めはもとの一斉授業に戻す。この変化を日常化する事である。

しかし，形態が変わるにはそれを裏付ける理論的な意義付けがしっかりしていないと長続きはしない。今回，それなりの理論的な裏付けを

佐藤学氏の著書を通して得ることができた。その中核をなすのがヴィゴツキーの「発達の最近接領域」理論に裏打ちされた「背伸びとジャンプ」という考え方である。その他，いろいろあるけれども，今回班活動の意義を理論的に習得できた事は大きな成果であった。

(2) 二つ目に，年間指導計画の作成である。選択授業「沖縄の歴史」を教えるにあたって，つたない内容ではあるけれども，私なりの 35 時間分の授業内容が完成したことである。指導案，ワークシート，板書事項の作成と，写真資料等の収集である。

これらの準備が整えられる事によって，選択授業は私にとって楽しいものとなり，「沖縄の歴史に対する知識と理解をもち，探究することができる生徒」像に迫ることができる。何よりも，通史として沖縄の歴史を教えることができる。そのめどがついた事が二つ目の成果である。

また，生徒たちにおける国際的事象の把握と選択授業「沖縄の歴史」の有効性がみられたことである。新聞記事「沖縄を中国に返せ」について，その「歴史的背景を理解しているか」という質問に対して，「正確に理解している」が 6 %，「だいたい理解している」67 %，「全然理解できない」が 27 %である。「理解している」生徒について，「どこで勉強したのか」という問いに対して，「選択授業」75 %，「歴史の授業」25 %であった。

(3) 三つ目に，パワーポイントの有効活用である。入所前の計画では，フラッシュカードを用いて板書事項を作成するつもりでいた。しかし，所内行事の取り組みの中でパワーポイントの利便性に気づき活用することにした。

今回の授業の改善を試み構成を考えるにあたって，このパワーポイントの活用を抜きにしては成立し得ない状況にある。板書事項，写真資料等の提示，アニメーション等による視覚的効果などである。いずれにしても，その利便性に気づき視聴覚機器の一つとして気軽に活用できるようになったことは大きな成果である。

2　今後の課題

(1) 検証授業後の反省会の中で沢山の御指摘を受けた。中でも「生徒の質問をいとも簡単に切り捨てた」場面を指摘されたのが印象に残っている。授業の改善には地道で根気強く長い取り組み期間が必要だと思う。楽しみながら実践していくわけであるが「生徒の声に耳を傾けて生徒のつぶやきをつないでいく授業を心がける」事を次の課題としたい。それは，「個を大切にする」という事も含めて，私の意識変革が問われているからである。生徒の声に耳を傾け生徒に語らしめてみんなで作り上げていく授業を目指す。その方が生徒にとっても教師にとっても達成感が生まれるような気がする。

今，取り組んでいるアからエ(P14 参照)の視点を堅持しつつ，更に上記のような視点にまで視野を広げて，より深く共に学び合う授業の構築を目指したい。

(2) 年間指導計画は案であり，実践していく過程の中で修正され加筆や削除が施されて当然である。よってややもすると数年かけてより完成された内容へと変化していくものと思われる。指導案やワークシート，写真や資料の内容も同じである。すなわち，常に授業改善の意識を持ち続け，削除や加筆などでこまめに修正していく行動力が要求され，２年から３年かけて完成していきたい。要するに，この気持ちを持つ続け，実践することが今後の課題である。

(3) パワーポイントの活用等における課題は，その機能を熟知し利用範囲を広げることである。例えば，動画を編集し取り込む，或いはアニメーションの種類や内容を十分知っておくなどである。まだまだ，知らない機能や使い慣れていない機能が多いので，早くそれらの機能を習得したい。そうする事によって授業の展開をより効果的に組み立てる事ができる。課題は熟知した機能を使ってより効果的な授業の展開をするためのノウハウを習得する事である。

【終わりに】

入所の動機は，選択授業「沖縄の歴史」を35時間分まとめ上げることであった。それはテキス『沖縄県の歴史』に沿って指導計画を作成すれば良いことである。毎日の授業の展開について，どのような視点で，どんな方法を使って進めていくのかという問題を抱えていた。幸いにも何とかめどを立てることができてほっとしている。今後は，楽しみながら根気強く生徒とともに検証を続けて行きたい。

研修期間中，研究全般にわたり指導，助言を頂いた研究所の比嘉信勝所長，石川博基係長，比嘉清喜指導主事をはじめ，職員の皆様に深く感謝申し上げます。また，テーマ検討会等で助言や温かい励ましの言葉を頂いた浦添市教育委員会の諸先生方，特に指導教師の金城聡先生には，検証授業等における示唆を与える御指導と温かい励ましと見守りを心より感謝申し上げます。また，神森中学校の稲福校長をはじめ，職員の先生方にも心より感謝申し上げます。

最後に，半年間研究を共にした先生方にも心より感謝申し上げます。和気あいあいとした雰囲気のなかで，共に学び合う事ができたことを嬉しく思います。皆様，本当にありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

『中学校学習指導要領(平成10年12月)』解説－社会編　文科省　平成11年
『中学校学習指導要領(平成10年12月)』解説－総則編　文科省　平成16年
『教育の方法』　佐藤学　放送大学教育振興会　1999
『授業を変える学校が変わる』　佐藤学　小学館　1999
『教師たちの挑戦』　佐藤学　小学館　2003
『学校を変える』　大瀬敏昭　小学館　2003
『学習科学とテクノロジー』　三宅なほみ・白水　始　放送大学教育振興会　2006
『教授・学習過程論』　大島純・野島久雄・波田野誼余夫　放送大学教育振興会　2006
『沖縄県の歴史』監修者　田港朝昭・仲地哲夫　沖縄県中学校社会科研究会　昭和60
『高等学校琉球・沖縄の歴史と文化』　新城俊昭　沖縄県歴史教育振興会　1993
『高等学校琉球・沖縄史』　新城俊昭　沖縄県歴史教育振興会　1995

【主な写真資料】

『図説　郷土のくらしと文化　上・下巻』　新星図書出版　昭和56
沖縄県史ビジュアル版　沖縄県教育委員会　2001
『江戸上り』，『貝の道』，『港川人と旧石器時代の沖縄』
『銃剣とブルドーザー』，『沖縄と台湾』，『青空教室からの出発』など多数
『ペリーがやってきた』